

◇必修項目習得講座

◇1級建築士試験で出題される基本事項を特に理解を要する項目を中心に原理・原則、実際の手順・手続き、イメージ、現象、理由の理解にポイントを置いて、ビジュアル映像を多用した解説が確実に理解を促進します。
@約2716分

科目	講義項目	時間
計画	①序／職業倫理・設計手法	約43分
	②居住施設(独立住宅)	約43分
	③居住施設(集合住宅)	約44分
	④社会教育施設(コミュニティ施設)	約42分
	⑤商業施設(事務所建築)	約72分
	⑥細部計画(人間工学・共用施設)	約45分
	⑦細部計画(ユニバーサルデザイン)	約72分
環境・設備	①単位と計算の基礎	約60分
	②日照・日射	約61分
	③採光・照明	約69分
	④色彩	約65分
	⑤室内気候と気象	約65分
	⑥換気	約68分
	⑦熱・結露	約75分
	⑧音響	約71分
	⑨空気調和設備	約71分
	⑩給排水・衛生設備	約66分
	⑪電気設備	約60分
	⑫防火・防災設備	約57分
法規	①法令の原則/用語の定義/面積・高さ等の算定方法	約88分
	②確認申請/一般構造	約76分
	③各種性能関係/耐火地域及び準防火地	約83分
	④防火区画/避難施設等/内装制限	約123分
	⑤道路/用途地域	約80分
	⑥容積率・建蔽率/高さ制限	約141分
構造	①建築構造の基礎知識	約80分
	②力	約81分
	③反力(1)	約79分
	④反力(2)	約89分
	⑤応力(1)	約82分
	⑥応力(2)	約74分
	⑦断面と応力度	約89分
	【附録】構造力学に役立つ計算の仕方	約95分
施工	①工事全体の流れ/地盤調査	約47分
	②仮設工事/土工事・山留め工事	約57分
	③基礎工事/鉄筋工事	約63分
	④型枠工事/コンクリート工事	約63分
	⑤鉄骨工事/防水工事	約79分
合計	約2716分 約45時間16分	

◇新傾向対策講座

◇令和元年度学科試験では、約3割が初出題の正答肢合格の最新のキーワード、令和2年度学科試験で出題が予想されるポイントを学習します。写真やコラムを用いた体系的にまとめた学院の完全オリジナル教材を使用します。
@約309分

講義内容	時間
観光振興と豊かな地域社会の形成	約52分
環境・エネルギー対策の推進	約52分
再生可能エネルギーの開発と近年の動向	約49分
建設現場における環境改善等	約59分
建築物の地震対策	約40分
木造に関わる新技術と動向	約57分
最新の法改正による環境の整備	約57分
合計	309分 約5時間9分

◇建築施工実務講座

◇躯体工事を中心に建設現場の様子を収録し、現場経験の少ない受験生でも現場の状況を視覚的にイメージすることができます。視覚的なイメージができることによって、工事全体の流れや各部工事における施工手順、専門用語などが理解しやすくなり、スムーズに学習が進みます。
@約220分

講義項目	時間
①鉄骨建物はこうしてできる～工事の流れ～	約50分
②土・山留め工事編	約20分
③場所打ちコンクリート杭工事編	約30分
④鉄筋工事編	約30分
⑤型枠工事編	約30分
⑥コンクリート工事編	約30分
⑦家はこうしてできる-木造軸組工法-	約30分
合計	約220分 約3時間40分

◇本試験解説講座

◇本試験のポイントについて解説
1級建築士を初めて受験される方は、最新の出題傾向と本試験の難易度を確認、試験を受験された方は、本試験を振り返り、弱点を分析しましょう@約290分

講義項目	時間
学科Ⅰ 計画	約58分
学科Ⅱ 環境・設備	約56分
学科Ⅲ 法規	約61分
学科Ⅳ 構造	約60分
学科Ⅴ 施工	約55分
合計	約290分 約4時間50分

項目	時間
必修項目習得講座	約2716分
新傾向対策講座	約309分
建築施工実務講座	約220分
本試験解説講座	約290分
合計	約3534分 約58時間54分